

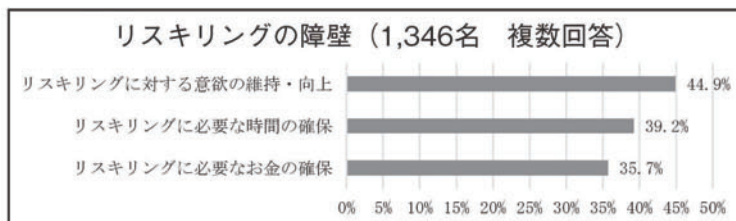
# 中小企業診断士の視点

## 第110回 リスキリング文化を根付かせる5つの実践法



中小企業診断士 池本 駿  
(一社)埼玉県中小企業診断協会

「リスキリング」という言葉を耳にする機会が増えています。生成AIや業務の自動化、消費者ニーズの多様化など、企業を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。こうした変化に柔軟に対応するには、社員一人ひとりが新たなスキルを主体的に学び直す「リスキリング」が不可欠です。そしてリスキリングは、ITスキルだけを指すものではなく、たとえば、マネジメント層の対話力もリスキリングに含まれます。現状、リスキリング文化の定着に多くの企業が苦勞しており、背景には3つの要因「意欲の維持・向上」「時間の確保」「お金の確保」が考えられます。本稿ではリスキリング文化を根付かせるための5つの具体的なアプローチを紹介します。



出典：日本公庫総研レポート No. 2024-4 (2024年12月)より筆者作成

### 1. 経営戦略とリスキリングをつなぐ

まず、経営者が社員に対し、企業の将来象、今足りないピースを示し、どんなスキルが必要になるのかを明確にすることが出発点です。経営者もしくは人事担当者が社員とキャリア面談を行い、「今後この会社でこういったスキルを持った人材が必要なのか」つまり「なぜ学ぶのか」「どう活かせるか」を共有すると、目的意識が生まれます。

### 2. 経営者が学ぶ姿を見せる

最も効果的なのは、経営者自身がリスキリングに取り組むことです。自ら学び、実践することで、「うちの会社では学ぶのが当たり前」という社風が出来上がっていきます。

### 3. 目標とインセンティブを用意

「〇〇の資格を半年で取得」といった目標設定をしてもらい、参考書代や受験料を企業負担にすると、学習の後押しになります。目標達成時には数千円～数万円のインセンティブを付与、昇給や人事評価に反映させると、社員のやる気にもつながります。

### 4. 業務時間内に学ぶ仕組み

リスキリング浸透のためには、可能であればあくまで業務の一環として、就業時間内に学びの時間を確保することが重要です。たとえば「毎週金曜日の13:00-14:00はリスキリングの時間」と決めてしまうといった工夫も考えられます。

### 5. 社内で学び合う場を作る

朝礼で「最近学んだこと」について順番を決めて発表したり、社内チャットで有益な動画や記事を共有したりすることを奨励していくと、学びの効果が高まります。

リスキリング文化は一朝一夕には定着しません。しかし、経営者が本気で環境を整え、自らも学ぶ姿勢を示すことで、自然と社員も変わっていきます。変化の激しい時代だからこそ、「学び続ける会社づくり」を一歩ずつ始めていきましょう。中小企業診断士は、このような組織文化の醸成支援も行っています。

#### 【問い合わせ先】

(一社)埼玉県中小企業診断協会

ホームページ：<https://sai-smeca.com/>

電話：048-762-3350

Eメール：[rmcsai@nifty.com](mailto:rmcsai@nifty.com)